

社会科学習指導案（歴史的分野）

日 時 平成24年 5 月 25 日（金） 第 1 校時

対 象 2 年 2 組(男子20名 女子20名 計40名)

指導者 教 諭 岩 元 光 博

1 単 元 「江戸幕府の成立と鎖国」

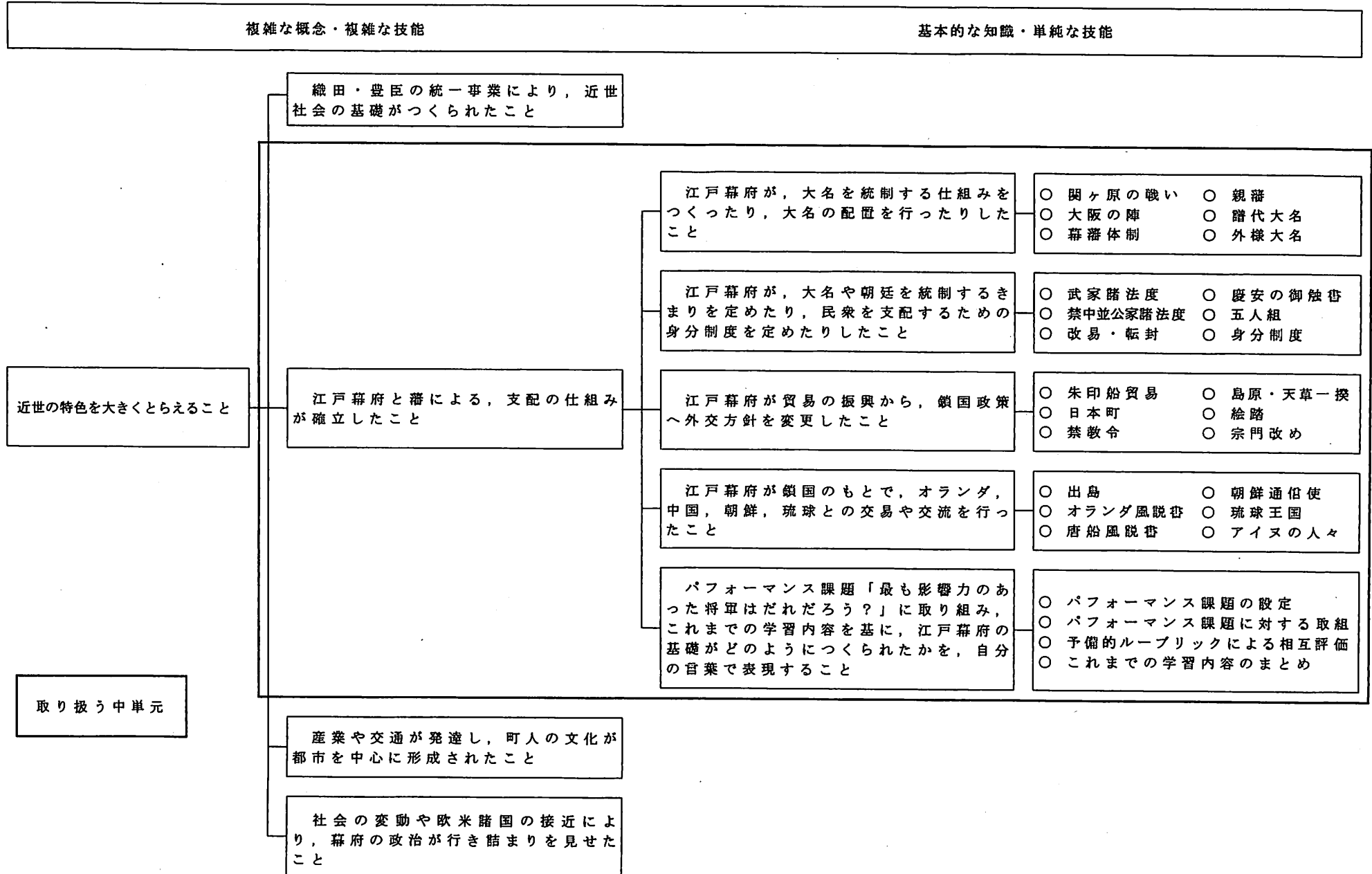
2 単元の考察

本単元は、徳川氏の江戸幕府による諸政策を通して、長期政権の基礎を築いたことについて学習する。江戸幕府の特色は、応仁の乱以降の戦乱が続いた時代から、大きな戦乱のない時代を迎えたことに見られる。政治では、武家諸法度や幕藩体制により、幕府が大名や武士を統制する仕組みをつくり上げた。経済では、多くの幕領と重要都市や鉱山等を直接支配したり、農民に年貢を納めさせる仕組みを確立させたりすることで、経済の基盤を築いた。外交では、禁教令や天草・島原一揆を経て、鎖国体制を確立し、幕府の統制のもとで交易や交流が行われた。これらの政策により、江戸幕府の基盤が築かれたことが大きい。

事前のアンケートによると、社会科に対して30名（75%）の生徒が関心があると答え、授業にも意欲的に取り組んでいると言える。本単元で取りあげる江戸時代に対するイメージとしては、16名（40%）が「平和で安定した時代」と、12名（30%）の生徒が「文化が発達した時代」と答えた。しかし、幕府が260年以上続いた理由については、19名（48%）の生徒が「幕府の力が大きい」、13名（33%）の生徒が「幕府が支配を徹底した」などと答えた。また、江戸幕府とそれまでの武家政権（鎌倉幕府や室町幕府など）との違いについても、12名（30%）の生徒が「将軍の力が大きかった」、10名（25%）の生徒が「戦いが少ない」などと答えるにとどまった。これらのことから、江戸幕府が260年以上続いた理由やそれまでの武家政権との違いについて、江戸時代初期に幕府によって行われた具体的な政策と関連付けて説明することのできる生徒は少ないということが分かった。

指導に当たっては、徳川家康、秀忠、家光の三名の将軍が行った様々な政策について、政治、経済、外交の視点でとらえ、260年以上続いた幕府の基礎がどのようにつくられたかを追究させたい。まず、本単元で学習する知識、概念や技能を確実に習得・活用していくために、学習内容を再構成した。その際、毎時間の授業において、幕府の大名や朝廷、民衆を統制するための政策や、幕府の経済を支える仕組み、統制の中にも交易や交流を行った外交政策について、年表や幕府の組織図、地図、史料に基づく統計資料など、具体的な資料を用いて読み取らせ、解釈させたい。そして、単元の最後に、パフォーマンス課題「最も影響力のあった将軍はだれだろう？」を設定して、260年以上続いた幕府の基礎ができた理由を、三名の将軍がそれぞれに行った政策から見いださせたい。そこでは、自分の主張を予備的ループリックを基に生徒同士で見直させ、討論形式による発表を通して他の主張と比較させ、自己の主張に不足する視点や新たな視点を獲得させる。そして、これらの活動を通して、様々な社会的事象を多面的・多角的に考察し、主体的に、公正に判断する能力や態度をはぐくんでいくことにした。

3 単元の学習内容の構造化



4 単元目標

- (1) 江戸幕府の成立や、260年以上続いた幕府の基礎がつけられたことに関心をもたせ、政治・経済・外交について意欲的に追究させる。
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- (2) 江戸幕府の基礎がどのようにしてつけられたかを、読み取った様々な資料を基に、幕府の政治や経済、領国下の対外関係と関連付けて考察させ、自分の言葉で表現させる。(社会的な思考・判断・表現)
- (3) 江戸幕府の政治の特色や、経済の仕組み、領国下の対外関係について等、年表や幕府の組織図、地図、史料に基づく統計資料などから読み取らせ、ノートにまとめさせる。(資料活用)の技能)
- (4) 江戸幕府の成立と大名統制、身分制度の確立及び農村の様子、領国政策、領国下の対外関係を通して、幕府と藩による支配が確立したことを理解させる。
(社会的事象についての知識・理解)

5 単元の指導計画と評価の重点 (全6時間)

評価 (授業中)

評価 (授業後)

主な評価場面と学習内容 (基本的な知識・単純な技能)	時間	評 価 規 準				主な言語活動の 具 体 的 場 面
		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用)の技能	知識・理解	
江戸幕府の支配のしくみ 江戸幕府が大名を統制する仕組みや、大名の配置を行ったことを読み取る場面 ○ 関ヶ原の戦い ○ 親藩 ○ 大阪の陣 ○ 譜代大名 ○ 幕藩体制 ○ 外様大名	1	260年以上も続く平和な時代が生まれた理由を意欲的に追究しようとしている。 【観察】		おもな大名の配置図から、江戸幕府の大名統制のねらいを読み取り、まとめたりしている。 【ノート】		《読み取り・解釈》 おもな大名の配置図から、大名の配置の特徴を読み取り、江戸幕府の大名統制のねらいを解釈する場面
さまざまな身分とくらし 江戸幕府が、大名や朝廷を統制するきまりや、身分制度を定めたことを理解する場面 ○ 武家諸法度 ○ 慶安の御触書 ○ 禁中並公家諸法度 ○ 五人組 ○ 改易・転封 ○ 身分制度	1		幕府が定めた身分制度について、そのねらいを様々な資料を基に考察し、適切に表現している。 【ノート】		江戸時代の身分制度と、人々の生活の様子を理解し、その知識を身に付けている。 【ノート】	《読み取り・解釈》 幕府が定めた身分制度について、それぞれの職分や生活の様子の違いから、江戸幕府の支配の仕組みを読み取り、そのねらいを解釈する場面
貿易の振興から領国へ 江戸幕府が、貿易の振興から領国へと、外交方針を変更した理由を考察する場面 ○ 朱印船貿易 ○ 天草・島原一揆 ○ 日本町 ○ 絵踏 ○ 禁教令 ○ 宗門改め	1		幕府が貿易の振興から領国へと方針を変更した理由を、様々な資料を基に考察し、適切に表現している。 【ノート】	幕府の外交政策の年表や、島原・天草一揆の時の、幕府の外交関係と国内情勢との関係を読み取ったり、まとめたりしている。 【ノート】		《説明》 幕府の外交関係と国内情勢の関係について、幕府が貿易の振興から領国へと方針を変更した理由を説明する場面
領国下の対外関係 江戸幕府が、領国政策のもとで、外国との交易や交流を行ったことを理解する場面 ○ 出島 ○ 朝鮮通信使 ○ オランダ風説書 ○ 琉球王国 ○ 唐船風説書 ○ アイヌの人々	1	領国政策のもとで、様々な国や地域の交易や交流に関心を持ち、意欲的に追究しようとしている。 【観察】			幕府の領国政策のもとで、統制の中でも交易や交流が行われたことを理解し、その知識を身に付けている。 【ノート】	《読み取り・解釈》 領国下の対外関係に関する資料を読み取り、幕府にどのようなねらいがあったか解釈する場面
パフォーマンス課題の設定 これまでの学習を基に、260年以上続いた幕府の基礎がつけられた理由をまとめる場面 ○ パフォーマンス課題の設定 ○ パフォーマンス課題に対する取組	1	パフォーマンス課題「最も影響力のあった將軍はだれだろう？」に意欲的に追究しようとしている。 【観察】		パフォーマンス課題に対して様々な資料から、江戸幕府の特色をまとめている。 【ワークシート】		《説明》 パフォーマンス課題に対して、これまで学習した内容を基に、260年以上続いた幕府の基礎がつけられた理由を、説明する場面
パフォーマンス課題の取組 自己の主張をお互いに表示し、予備的ルブリックでの相互評価や討議を通して、自己の主張を見直す場面 ○ 予備的ルブリックによる相互評価 ○ これまでの学習内容のまとめ	本時		予備的ルブリックによる相互評価や討議を通して、自己の主張を見直し、根拠と論拠を明確にしながら、適切に表現している。 【ワークシート】		三名の將軍によって行われた政治・経済・外交の政策によって、260年以上続いた江戸幕府の基礎ができるまでの過程を理解し、その知識を身に付けている。 【ワークシート】	《論述》 パフォーマンス課題に対して、これまで学習した内容を基に、自己の主張を述べる場面
全6時間における各評価観点の配当時数		③	3	2+①	1+②	0数字は、授業後に行う評価の目安を表す

6 本時の実際（6／6）

(1) 主 題 「260年以上続いた江戸幕府の基礎は、どのようにつくられたのだろうか。」

(2) 本時の目標

ア 予備的ループリックによる相互評価や討論を通して、自己の主張を見直し、根拠と論拠を明確にしなが、適切に表現している。

(社会的な思考・判断・表現)

イ 三名の将軍によって行われた政治・経済・外交の政策によって、260年以上続いた江戸幕府の基礎ができるまでの過程を理解し、その知識を身に付けている。

(社会的事象についての知識・理解)

(3) 主題の考察

本単元では、徳川家康・秀忠・家光の政策により、260年以上続いた幕府の基礎が形成されたことを学習してきた。徳川家康は、関ヶ原の戦いの後、朝廷より征夷大将軍に任命され、江戸幕府を開き、幕府の仕組みや五街道の整備、佐渡金山を幕領にするなど、幕府の政治・経済の基礎を築いた。二代将軍の秀忠は、家康の政策を忠実に実行し、武家諸法度や禁中並公家諸法度など、法律の整備を進めた。また、外交政策としては、平戸に商館を設置しヨーロッパとの交易を進める一方、キリスト教の禁教を進めた。三代将軍の家光は、武家諸法度の改正や鎖国の完成により、政治・経済・外交の仕組みの基礎をつくりあげた。これらの政策により、それまでの下剋上の風潮を抑え、幕藩体制や鎖国など、これまでの武家政権とは異なる新しい仕組みをつくり出した。

生徒は、小学校で、徳川家康や家光の肖像画や人物年表、エピソードなどから人物の業績を考える学習や、大名行列や出島、絵巻の資料を活用して江戸幕府の政策を調べる学習を行っている。事前のアンケートによると、江戸時代初期、「武家諸法度」、「鎖国」といった政策について、ほとんどの生徒が、その内容を自分の言葉で説明することができていた。しかし、江戸時代初期に幕府によって行われた具体的な政策が、江戸幕府が260年以上続いたこととどのようにかかわっているかということについて質問したところ、「武家諸法度」については15名（38%）の生徒が、自分の言葉で表現することが十分にできていなかった。また、「鎖国」については、8名（20%）の生徒が「キリスト教を押さえるため」と、政治的な視点で答えており、「貿易を統制するため」というような経済的な視点で答えた生徒はいなかった。これらのことから、生徒は、江戸時代初期に幕府によって行われた具体的な政策について、内容についてはある程度理解できているが、政治、経済、外交といった視点でとらえ、江戸幕府が260年以上続いたことと関連付けて考察することが十分にできていないことが分かった。

指導に当たっては、今まで学習したことを基に、パフォーマンス課題である「最も影響力のあった将軍はだれだろうか？」に取り組ませる。その際、江戸幕府が大きな戦乱のない社会を築きあげたことに効果が大きかった政策を資料から選択させ、徳川家康、秀忠、家光のどの将軍が最も大きな影響力を及ぼしていたかについて政治、経済、外交の面から考察させる。そして、その政策が重要であると判断した理由（論拠）を、生徒が選択した資料（根拠）を基に、グループで説明させる活動を取り入れる。また、グループや全体で表現させる活動や予備的ループリックを活用した相互評価を通して、自己の主張の見直しをさせることで、生徒の思考力・判断力・表現力をはぐくんでいきたい。このような活動を通して、武家政権がこれまでと異なっていることへの関心を一層高め、260年以上続いた江戸幕府がどのように歴史を歩んでいくのかを意欲的に追究させるとともに、江戸幕府に対するこれまでの社会認識をさらに深め広げさせたい。

(4) 研究に関する指導の工夫

【「演繹的」「帰納的」に思考させる指導の工夫／研究冊子（４年次）p51】

江戸幕府の政策に関する資料を基に、帰納的な思考をさせながら、260年以上続いた幕府の基礎ができた理由について、自己の主張をまとめさせる。

【ループリックによる評価／研究冊子（４年次）p53】

予備的ループリックを活用して、生徒同士で主張を見直し、練り上げさせる活動に取り組ませ、思考・判断・表現の一体化を図る。

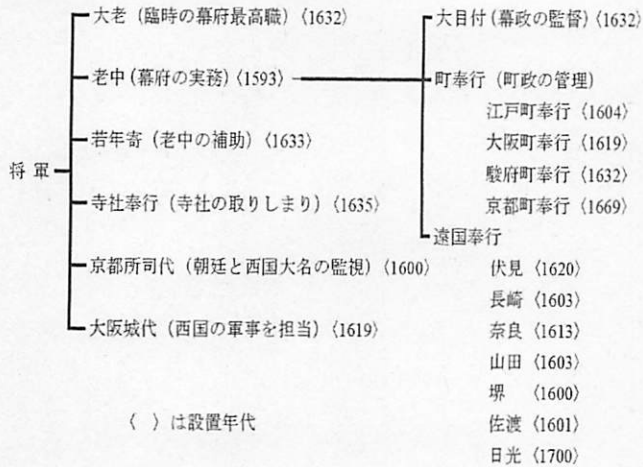
(5) 本時の展開（６／６）

主な発問や指示	単 元	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	情報提示の方法と内容
<問題把握> ○ パフォーマンス課題を確認してみよう。	5分	1 パフォーマンス課題を確認する。 2 学習課題を設定する。	1 前時に作成した生徒の作品を確認、よりよいものにする意欲を高めさせる。 2 本時の学習内容を確認させ、学習課題を設定する。	ワークシート 「最も影響力のあった将軍はだれだろう？」
<本質究明> ○ 自己の主張に対して、これまで学習した資料からどのように考えたか、グループで発表してみよう。	15分	3 グループで自己の主張を発表し、相互評価を行う。 ↓ 【思考・判断・表現】 予備的ループリックによる相互評価や討論を通して自己の主張を見直し、根拠と論拠を明確にしながら適切に表現している。 ↑	3 資料を基に、どのように考えたか、自己の主張を論理的に発表させ、予備的ループリックを用いて相互評価させ、不足する視点や内容を修正させる。	ワークシート 「最も影響力のあった将軍はだれだろう？」 「予備的ループリック」
○ グループで発表したことを基に、三名の将軍が行った政策から、260年以上続いた幕府の基礎ができた理由について、全体で自己の主張を発表し、討論してみよう。	20分	4 グループでの相互評価を通して考察したことを発表し、全体で討論する。	4 グループでの発表や、他の主張に対する反論を受けて、自己の主張を強める意見や、他の主張を批判する意見を、根拠と論拠を明確にして発表し、全体で討論する。	ワークシート 「最も影響力のあった将軍はだれだろう？」 【実物投影機】 「生徒の作品」
<洞 察> ○ どのようにして260年以上続いた幕府の基礎ができたのだろうか。	10分	5 260年以上続いた幕府の基礎ができるまでの過程を、自分の言葉でまとめさせる。 ↓ 【知識・理解】 三名の将軍によって行われた政治・経済・外交の政策によって、260年以上続いた江戸幕府の基礎ができたことを理解し、その知識を身に付けている。	5 三名の将軍によって行われた政治・経済・外交の政策によって、260年以上続いた幕府の基礎ができたことに気付かせる。	ワークシート 「最も影響力のあった将軍はだれだろう？」

□ は評価場面、 ○ は授業中における評価観点、 () は授業後における評価観点

(6) おもな資料

資料1 江戸幕府の仕組み



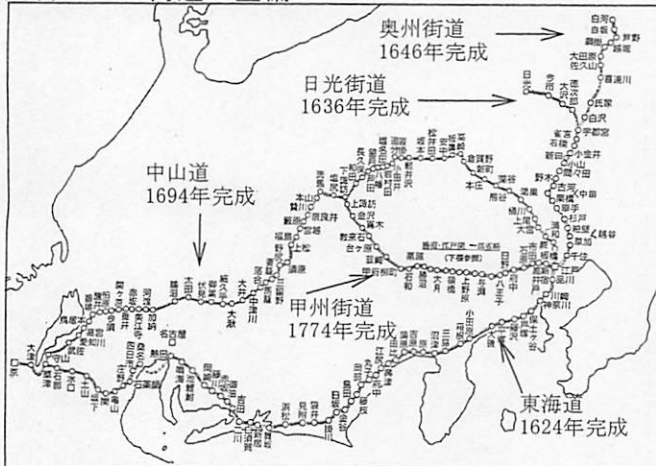
資料2 禁中並公家諸法度の制定

1615年、徳川家康のいる京都の二条城に、将軍の徳川秀忠と公家（天皇の側近）が集められ、禁中並公家諸法度（全17条）が申し渡された。

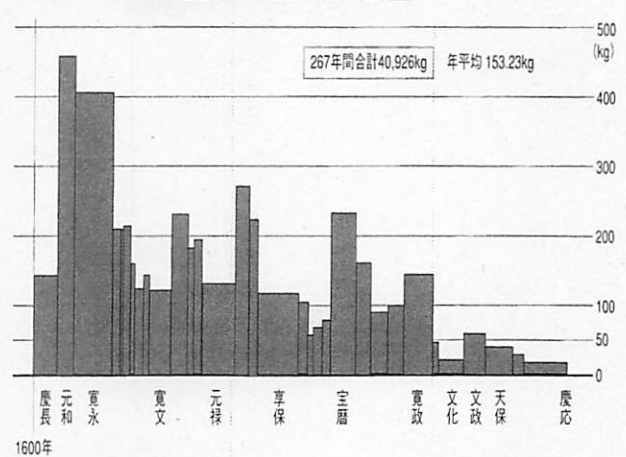
- 一、天子（天皇）が習熟すべき芸能は、まず学問である。和歌は（中略）我が国の習俗であり、これを捨て置いてはならない。
- 一、関白、武家伝奏と奉行の職事の申し渡しに、公家たちは従うこと。従わなければ処罰する。
- 一、紫衣（朝廷から許される最高位の袈裟）を与えられる寺の住職は、その器用や修行、経歴など考慮して決めること。

この法度は、日本の歴史上初めて、天皇の行為を法的に規定した法度である。1627年には御水尾天皇が僧侶に与えた紫衣が、幕府によって無効にされるできごとがおこった。

資料3 五街道の整備

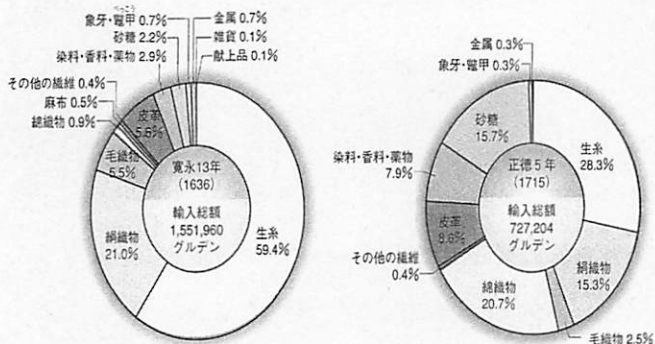


資料4 佐渡金山の金の産出量



『地図・グラフ・図解でみる 一目でわかる江戸時代 小学館』より

資料5 オランダとからの輸入総額と輸入品目



『地図・グラフ・図解でみる 一目でわかる江戸時代 小学館』より

資料6 幕府の外交関係に関する年表

将軍	年	主なできごと
家康	1600年	オランダ船が、豊後（大分県）に漂着する
	1604年	貿易船に朱印状（海外渡航許可書）を与える
	1607年	朝鮮通信使が、初めて江戸に来る
	1609年	オランダが、平戸に商館を設置する
	1612年	幕府直轄領にキリスト教禁止令が出される
	1613年	（伊達政宗が、支倉常長を欧州に派遣する） イギリス商人が、平戸に商館を設置する 全国にキリスト教禁止令が出される
	1616年	ヨーロッパ船の来航を平戸、長崎に限定する
秀忠	1622年	キリスト教徒65人が、長崎で処刑される（元和大殉教）
	1623年	イギリス商人が、平戸の商館を閉鎖する
	1624年	スペイン船の来航を禁止する
	1627年	長崎奉行が、キリスト教徒340人を処刑する
	1629年	長崎奉行が、絵踏を始める（他説あり）
	1633年	老中奉書船以外の海外渡航を禁止する 在外5年以上の日本人の帰国を禁止する
	1635年	外国船入港を長崎に限り、日本人の海外渡航・帰国を厳禁とする
	1636年	長崎の出島が完成する
	1637年	島原・天草一揆（～1638年）
	1639年	ポルトガル人の居住と来航を禁止する
家光	1641年	平戸のオランダ商館を、長崎の出島に移す